

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2791600071		
法人名	社会福祉法人 和貴会		
事業所名	グループホーム スローライフ千里		
所在地	大阪府吹田市千里万博公園6番8号		
自己評価作成日	平成 25年 2月 11日	評価結果市町村受理日	平成 25年 4月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvoCd=2791600071-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 3月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々共に暮らしてきた入居者様の最後の時を、かかりつけ医と連携しながら、ご家族と一緒に看取らせて頂きました。かかりつけ医からのご指導により、私達は身体的機能を生理学的に学び、観察力やその対応方法を身に付けることが出来ました。寄り添うご家族と共に過ごした時間は、入居者様とご家族の築いてきた人生に、私達が参加させて頂いていることに気付かされ、出会いに感謝しました。最後まで生き抜いて下さった入居者様の姿は、私達に命の尊さを教えて下さいました。そして、それらを見守って下さっていた入居者様達に私達は励まされ、労わる暖かい言葉に感動させられました。これらかけがえのない経験は、今日見られる笑顔は逃さない、今日できるケアは諦めないと、私達のケアの原動力になっています。四季折々の景色を楽しみながら、入居者様の笑顔あふれる日常を支えていくことに、感動と喜びを得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

万博公園の隣の自然環境に恵まれた場所に立地している、社会福祉法人が運営するグループホームです。同じ建物の中には、特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護事業所、認知症対応型デイサービス等の地域密着型事業を複合的に運営しています。管理者は、職員間でのケア方針を統一するため、職員間の「情報の共有化」に取り組んで成果を挙げ、職員間の風通しがよくなり、家族の評価も高く、職員の意気は上がっています。入浴時間帯についても朝風呂、夕食前、寝る前等、利用者本位で自由に選択できるようにしています。利用者は、傾聴や音楽療法、楽器演奏、篠笛、銭太鼓などのボランティア支援を受けて楽しみ、地域の保育園児との交流も活発に行われています。利用者は、行き届いた医療的配慮やケアサービスを受け、チームワークがよく優しい職員に囲まれ、安心してゆったりと過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念「日々宣誓」と共に、「私達がしたい介護」として事業所独自の理念をスタッフルームに掲げ、職員間で共有しています。	法人の基本理念「日々宣誓」と、施設長の掲げるスローガンをベースに職員が話し合い、「おいしい食事・心地よい睡眠・気持ち良い排泄のある日常を守ります」「健康でいられるようにどんな小さなサインも見逃しません」「想像力と行動力を持ち続け自立を支えます」「地域の一員として暮らすためのかけ橋になるよう努めます」「情報を共有し相談し合い共に喜びを分かち合うチームの絆を信じます」「未熟な自己に磨きをかけ常に学ぶ姿勢を持ち続けます」を骨子とする6ヶ条のホーム理念を定め、明示しています。フロア会議や毎日の業務などを通じて、職員が方針を共有しながら介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、地域の人たちと共に支えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天候の良い時期にはアドプトロードに参加し、地域の美化運動に参加しています。地域の保育園児と焼芋をしたり、クリスマス会にお誘いしたりと交流しています。回想法や音楽会、傾聴、銭太鼓等のボランティアの支援も受けています。介護サポーター制度の活用も行っています。	地域自治会の福祉委員会とは、キッズ車イス体験会で交流しています。また、地域の美化運動として、アドプトロードに利用者が参加し、花壇の草むしりや手入れをしています。利用者は傾聴ボランティアや音楽療法、楽器演奏、篠笛、銭太鼓などのボランティアの支援を受け楽しんでます。地域の保育園児とは焼いも大会やクリスマス会などで交流し、中学生の体験学習も受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、ホームの取り組み等について事例を用いて報告し、支援の方法を発信しています。又、管理者は認知サポーター養成講座にキャラバンメイトとして参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しています。本年度から介護相談員がメンバーに加入され、より積極的な意見交換が行われ、そのご意見がサービス向上に活かせるよう取り組んでいます。	運営推進会議は市職員、地域包括支援センター職員、市社会福祉協議会職員、地域自治会福祉委員、市介護相談員、利用者、家族の参加のもと、おむね年6回開催しています。会議では事業所の活動状況や利用者の生活状況、行事の説明をしています。また徘徊高齢者SOSネットワーク事業や施設長の東北被災地復興支援(がれき撤去)への参加報告、他グループホーム職員との交流研修、地元消防団との話し合いなどの説明を行い、意見交換をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は吹田市グループホーム・特定施設部会の世話役を担っています。又、キャラバンメイト・フォローアップ研修や地域包括支援センターが開催しているケアマネ倶楽部に参加し、他事業所との交流に努めています。	市の担当職員とは報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。また、地域包括支援センターが主催するケアマネ倶楽部に参加して、情報交換を行っています。管理者は市のグループホーム・特定施設部会の世話役を担い、市の介護支援サポーター制度や介護相談員を受け入れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会に参加し、日頃のケアの振り返り、拘束しないケアに取り組んでいます。1階に通じるエレベーターは電子ロックで施錠していますが、操作盤の上に暗証番号を表示し、外出願望のある利用者には一緒に外出したり、リビング前のベランダに出て、気分転換しています。	身体拘束のないケアに取り組んでいます。1階に通じるエレベーターは電子ロックで施錠されており、操作盤の上に暗証番号を表示し、外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「私たちの声が聴こえますか」DVDを観賞し、ケアの振り返りを行い、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「自分らしい明日のために」DVDを観賞し、権利擁護について学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インテークや契約締結時に、不安や疑問を尋ね、事務長及び管理者は丁寧な説明に心掛け、利用者やご家族の理解と納得を得ています。又、改定時には説明会を行い、参加出来なかつたご家族には、一人一人面接を行い、理解・納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱をホーム内に設置しています。又、市の介護相談員を受け入れ、外部者に要望を表せる機会も作っています。ご家族からの苦情に値する要望は「苦情受付・経過記録書」を用いてスタッフに周知、検討を行い、解決策は「重要事項申し送りチェック表」を用いて口頭での申し送りに徹し、再発防止に努めています。	家族とは、面会時に利用者の生活状況や連絡事項を伝え、健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告しています。毎月、ホームの行事予定、管理者の伝言、利用者の表情豊かな写真とともに、担当職員が利用者の生活状況を書き添えて、家族に送付しています。また、介護計画の変更についても家族も参加するサービス担当者会議で話し合い、家族の信頼を得ています。市の介護相談員を受け入れ、利用者が第三者の方に要望を表せる機会も設けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度フロア会議を開催し、職員の意見や提案を業務改善やケアの見直しに反映させています。又、施設長と管理者は、年度末に個人面談を行い、スタッフの意見や要望を聞く機会を設け、士気向上に繋げています。	定例のフロア会議や毎日の業務を通じて、業務の改善事項や課題について職員の意見や提案を聞く機会を設けています。また、管理者は職員間でのケア方針を統一するため、職員間の「情報の共有化」に取り組みの成果を挙げ、職員間の風通しがよくなり、家族の評価も高く、職員の意気は上がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年4月、スタッフ個々の評価に基づいて昇給を行っています。又、介護福祉士、基礎研修修了者等の資格手当を見直し、引き上げています。 法人全体の新年会にて、功績のあった職員を表彰しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や外部で行われている連続研修等に管理者と相談し、その能力と役割を判断し、参加者を決め参加して頂く等、計画的な職員育成に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、吹田市グループホーム・特定施設部会に参加し、吹田市介護フェアに取り組むことで、同業者と積極的な交流を行っています。又、同会において勉強会が行われ、他施設実習に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	同じ建物内にある小規模多機能居宅介護を利用中の入居希望者には、事業者間で連携し、安心した入居に努めています。又、センター方式 B-2、B-3を用いて、関係づくりに役立っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	じっくりとお話を伺う時間を設けています。又、ご家族の意向や希望は「ご家族様との連絡簿」に記録し、スタッフ間で周知し、対応することで、より良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの第1の課題に設定し、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見出し、お互いに役割を持った生活が営めるよう、ケアプランにも設定し支援しています。「ありがとうございます」と感謝の言葉をお互いに掛け合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの見直しは、ご家族と共に行っています。又、必要な日用品等は、出来るだけご家族に持参して頂けるよう連絡を取っています。いつもと違う様子が見られたら連絡させて頂き、時には協力を得ています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別ケア計画報告書を用いて、馴染みの本屋や喫茶店を訪ねたり、レストランでの食事を楽しんでいます。又、誕生日にはご家族と何がしたいか話し合い、お買い物支援もしています。ご家族が入院した時には、ご本人を同行してお見舞いに行っています。	家族や利用者の意向を記録した「暮らしの希望・意向」に沿って、担当職員は「個別ケア計画報告書」を作成し、利用者との外出を実施しています。モノレールに乗って、馴染みの本屋と喫茶店に行きたいという利用者の思いや、スーパーの中にある洋服屋に行きたいという利用者の思いを実現して、大切に思う馴染みの人や場所との関係が、途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席は、利用者同士の関係性に合わせて設定しています。又、引きこもりがちな利用者には、訪室をケアプランのサービス内容に設定し、孤立しない支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ボランティアに来て下さったり、音楽会を開催して下さいと、サービスが終了しても関係を継続して下さいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者やご家族から得た希望や意向は、「暮らしの希望・意向」用紙に記録し、出来る限り実現できるよう努めています。	利用者の希望や思いを「暮らしの希望・意向」用紙へ確実に記録し、職員間での把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族からセンター方式 B-2、B-3の情報を頂き、これまでの暮らしの把握に努めています。又、入居後に得た情報は「ご家族との連絡簿」を用いてスタッフ間で周知しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケースファイル記録を用いて把握しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当スタッフは毎月モニタリングを行い、そのモニタリングをご家族に報告し、ケアプランを作成しています。又、必要に応じてカンファレンスを行い、ご家族の同意の元、ケアプランに反映させています。かかりつけ医、リハビリ事業所等の専門職とも連携しています。</p>	<p>介護計画は3ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は毎日、プラン援助項目が書かれた日報形式のケースファイル上で、モニタリングを行っています。また、担当職員はモニタリングチェックシートを使って、毎月モニタリングを実施し、計画作成担当者に提出しています。介護計画の変更にあたっては、家族も参加するサービス担当者会議を開催しており、モニタリングシートを家族に説明し、意向を聞いて介護計画の見直しにつなげています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケースファイルに記録し、情報を共有しています。その中での気づきや工夫は、ケースカンファレンスとして特別に取り上げ、ケアプランに設定しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>「暮らしの希望・意向」「ご家族との連絡簿」を用いて、その時々得たニーズに対して、柔軟に対応しています。ターミナルを迎えたご家族の支援もさせて頂きました。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アドプトロードに参加しています。又、近所の神社のお祭りや初詣に出掛けたり、花火大会も楽しんでいます。四季折々に万博公園も活用しています。味噌汁の具材も、同行する入居者様の馴染みのスーパーを利用するようにしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と利用者の同意を得て、24時間医療連携しているかかりつけ医の定期的な訪問診療を受けています。他科受診が必要と判断した時は、かかりつけ医の紹介を受け、ご家族の同意を得た後に、管理者が付添い介助を提供しています。	家族と利用者の同意を得て、医療連携をしているかかりつけの医療機関より定期的な訪問診療を受け、家族へ定期的に医療情報を提供しています。また、他科受診の際には通院介助を行っています。協力病院と連携し、急変時の対応について体制も整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケースファイルを開示し、看護職と連携しています。又、「看護師さんとの連絡簿」を用いて、看護職が行った処置等の情報をスタッフ間で共有し、時に指導も受けています。適切な診察が受けられるよう、往診時には看護職も同席しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、診療情報提供書や当所での生活をまとめた書面を提供し、情報交換に努めています。必要時には、かかりつけ医に入院先への連絡を依頼し、早期退院へ向けて調整して頂いています。病院主催の研修や検討会に参加し、関係作りにも努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を用いて、終末期ケアの考え方やあり方について十分に話し合いを行い、ご家族、かかりつけ医とその方針について共有し、取り組んでいます。	「看取りに関する指針」に従って看取りを実施する方針を持ち、仲間の利用者にも見守られながら、ホーム内で看取った事例が数件あります。利用者が重度化した場合でも、可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、方針の共有を図っています。かかりつけ医と連携を図り、状況の変化に合わせてその都度、家族と利用者や医師、看護師と話し合いを行い、対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「転倒・転落対応マニュアル」「緊急対応マニュアル《日中の場合》《夜間の場合》」等の応急処置マニュアルをスタッフルームに掲げ、速やかに実施できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えるマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施しています。平成24年度吹田市自治会連合協議会合同防災訓練に参加し、地域との連携体制作りにも取り組んでいます。食料・水の備蓄を行いました。東日本大震災において被災した施設の施設長の講演会に参加し、その報告書を回覧し、災害に対する意識向上に取り組みました。	年に2回の避難訓練を実施し、内1回は消防署の指導を受けています。長崎のグループホーム火災事故後、消防署と市職員の立ち入り査察が行われました。地域と合同の防災訓練にも参加しています。災害時の食料と水の備蓄については、昨年の外部評価以降、地域の人々の分も合わせ備蓄量5日分を最終目標に、毎年1日分ずつ備蓄量を増やしていく取り組みをスタートさせています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者に合わせた、分かりやすい丁寧な言葉掛けに心掛けています。又、認知症状に合わせた統一した言葉かけや対応が必要な時は、「〇〇様の対応」という書面を作成し、取り組んでいます。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮して、やさしい雰囲気です。人権については、毎年法務省監修のビデオを使って研修を行い、職員の意識向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「暮らしの希望・意向」に記録し、実現できるよう取り組んでいます。介護抵抗を「拒否」と捉えるのではなく、ご本人の思いや意思決定であることを、研修を通して学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせた対応や、利用者一人ひとりがしたいこと、好きなこと等を、その時々に合わせて、柔軟に対応できるようにしています。入浴も、好きな時に入って頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口紅を塗ったり、スカーフを巻いたりとお元気だった頃にしていただきたおしゃれを大切にしています。又、入浴時の着替えは、入居者様に選んで頂き、ご本人が着たい洋服を提供しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁は買い物から味付けまで、利用者と一緒に作っています。後片付けも利用者と一緒に取り組んでいます。又、季節に応じてベランダでのバーベキューや流し素麺、利用者の希望に応じてお好み焼やおやつ作りも楽しんでいます。年に数回の外食も楽しんでいます。	複合施設の厨房より、調理済みの食材を取り寄せています。味噌汁は買い物から味付けまで、利用者と一緒を作っています。利用者は食事準備や片付け等、それぞれ得意な分野で参加しています。職員は利用者と同じものを一緒に食べ、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく実施しています。「出張料理」と称して厨房の職員がフロアに出向き、利用者の前でだし巻きの調理をして喜ばれています。ベランダでバーベキューをしたり鍋物をするなどの行事食を楽しんだり、年に数回は外食する機会もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の盛り付けは、ご本人にして頂いています。水分は、制限がある方以外は1日1500cc以上を目標に、様々な飲料水を用意して楽しんで飲用して頂けるよう工夫しています。食事量が少ない方には、ご家族と協力しながら好物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを実施しています。歯科医、歯科衛生士の指導の元、口腔内の状態に合わせたケア方法を提供しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケースカンファレンスを開催し、排泄ケアに取り組んでいます。必要に応じてケアプランの課題に設定し、統一した対応を提供することで、トイレでの排泄、清潔保持に努めています。又、過剰なトイレ誘導がないように、その人に合わせた排泄パターンの把握にも取り組んでいます。	排泄の記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。声かけや誘導、見守りによる排泄支援を行い、利用者の大半は布パンツを着用し、トイレで排泄ができる自立に近い状況になっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1500CC以上の水分補給に取り組んでいます。便秘が目立つ利用者には、便秘解消をケアプランに掲げ、取り組んでいます。又、かかりつけ医と連携し、下剤を調整しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望により朝風呂、夕食前、寝る前の入浴ができるよう職員配置を行っています。施設内にある大浴場も利用し、入浴を楽しんでいます。	入浴できる時間帯を広げ、利用者の希望により朝風呂、夕食前、寝る前に入浴ができます。利用者は平均して週3回入浴し、事業所の最上階の万博公園が見渡せる大浴場でも入浴を楽しむことができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調に合わせて休息しています。フロアでのうたた寝が寄り快適になるようリクライニングの椅子を設置しています。又、ゆっくり安心して休めるよう、フロアにもベッドを用意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個人ファイルに綴じ、スタッフがいつでも閲覧できるようにしています。又、薬の変更に伴う注意点や副作用に関する情報は訪問薬局から指導を受け、申し送りノートに記録し、スタッフ間で周知し、観察を強化しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式 B-2、B-3で得た情報、サービス担当者会議においてご家族から得た情報を基に、利用者個々の生活に合わせた余暇の過ごし方に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の外出を楽しんでいます。又、個人や少人数で行く外食や買い物、味噌汁の具材の買い出しに出掛けています。ご家族との外出や一時帰宅の支援も行っています。	日常的に自然環境に恵まれ緑の多い近隣の公園や病院周辺を散歩し、府道の美化・緑化のアドプトロードに参加し受け持ち区域の花の手入れをしています。時には買い物にも行き、初詣や季節の花見にも出かけ、万博公園にも出かけています。利用者の希望に沿って個別の外出支援もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心される方には、紛失の可能性を了承頂いた上で身に付けて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時には電話をしたり、手紙のやり取りをしています。年賀状を送る支援もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の行事に合わせて、玄関やリビングを飾り、季節感のある空間作りに配慮しています。「食事を楽しむ所」「談話を楽しむ所」「音楽鑑賞する所」等、用途に合わせて寛げるよう工夫しています。	事業所の建物は、緑や公園のある自然環境に恵まれた場所にあります。2ユニットのリビングや食堂のある共用空間には仕切りがなく、広く明るく開放的です。万博公園の緑が見え、季節の花もあるベランダを含め、利用者がそれぞれ数多くある居場所から落ち着く場所を見つけ、仲間同士の会話や笑顔のある空間になっています。リビングには季節の風物の飾りつけがあり、書籍や新聞、家具や調度品で雑然とした中に落ち着きのある過ごしやすい居場所になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに合った居場所や寛げる空間作りを常に検討し、模様替えを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅訪問を行い、出来るだけ馴染みの物を持って来て頂けるよう、お願いしています。又、ご家族が寛ぐために、ご家族用のソファを搬入した居室もあります。	居室には、それぞれに個性的な家具や調度品、趣味の飾り付けがあり、利用者の生きてきた歴史や家族の存在が感じられるようになっていきます。本棚には数十冊の書籍を並べ、机で書籍や新聞を読みながら過ごす方や、大きな家族写真に見守られながら安心して過ごす方もいます。その他、居室に絨毯を敷き、粘土で作った欧風な人形やガラスの馬車、またバスケットを置き、華やかな花を飾っている方など、それぞれ個性的で居心地良く過ごせる雰囲気になっていきます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「トイレ」と分かりやすく表示しています。スタッフは「できること」「わかること」の観察に努め、工夫した対応をすることで「できるようになった」ことをケースファイルに記録し、楽しく自立した生活が送れるよう努めています。		